

自動車業界を取り巻くカーボンニュートラル

カーボンニュートラルへ向けて自動車業界が急速に動いている。その手法として各国政府や各自動車メーカーは電気自動車や燃料電池自動車を普及させる電動化を推し進めようとしている。これらの電動車は走行中には全く二酸化炭素を排出しないため、カーボンニュートラルには非常に有効である。しかし、日本のような火力発電に頼る割合が多い国ではかえって二酸化炭素の排出が増え、水素も製造過程で二酸化炭素を排出しているためカーボンニュートラルに逆行することにもなる。さらには充電ステーションなどのインフラの不足や航続距離などの利便性の問題や自動車業界の雇用の減少といったマイナス面も電動化には多い。

そのようなマイナス面を補うべく、国のエネルギー事情やユーザーの様々な使用環境を考えて、ハイブリッド車、電気自動車、燃料電池自動車、水素エンジン車、カーボンニュートラル燃料など様々な選択肢を自動車メーカーは用意し、各国政府は闇雲に内燃機関を閉め出すことはやめて、自国の現状をしっかりと分析して最適な方針を示すべきだ。それが結果的にカーボンニュートラルへの1番の近道となるのではないだろうか。様々なルートからカーボンニュートラルの達成に向けて努力することが重要である。